

豊かな学力を育む指導のあり方

～国語力の向上をめざした授業実践と言語環境づくりを通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

- (1) 児童の基礎学力の実態把握と分析・日常実践の交流
- (2) ねらいと評価を明確にした一人一授業実践
- (3) 読書活動の推進を図る具体的方法と研修会
- (4) 言語環境を整えるための具体的方法と研修会
- (5) 教育課程の検討・作成
- (6) 「新学習指導要領」についての研修会

2 研究実践

(1) 理論研究

6月「国語力の向上をめざした授業実践について」

講師：教育事務所（一之宮英文指導主事）

8月「新学習指導要領についての学習会」

講師：義務教育課（小林 正治指導主事） 教育事務所（小林 誠一指導主事）

(2) 授業研究

【読む】部会

第6学年 教材名「生き物はつながりの中に」 授業者 三森公仁教諭

目指す言語能力 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力

- ・説明文の教材で、記述内容や論理の展開についての意見と共に、文章のよさや問題点などについて、子どもたちが評価し、意見を持つという評価読みの指導を取り入れた授業だった。子どもたちは、筆者の主張に対する自分の意見を持ち、肯定派と否定派で意見を交流し合いながら、自分の考えをまとめることができた。

（指導助言：義務教育課 小林 大指導主事）

（指導助言：教育事務所 一之宮英文指導主事）

第3学年 教材名「すがたをかえる大豆」 授業者 海沼潤子教諭

目指す言語能力 中心となる語や文をとらえて、文章全体の構成を読み取る力

- ・段落相互の関係をとらえながら、説明文を「初め」「中」「終わり」に分けるという学習活動だった。子どもたちは、段落の役割を理解し、言葉に着目しながら全体を3つに分けることができた。

【話す・聞く】部会

第5年 教材名「人と「もの」との付き合い方」 授業者 堀井勝彦教諭
目指す言語能力 問題の解決に向けて、自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合うことができる

- ・ゴミ問題や人と「もの」との付き合い方についての問題点や疑問点、改善点などについて、班の中で発表し合い、意見交換をするという学習活動だった。話し手、聞き手の課題を意識しながらしっかり話し合うことができた。

(指導助言：教育事務所 一之宮英文指導主事)

(4) 読書活動

- ・読書期間中に、低学年は目標読み、高学年はブックウォークに取り組んだ。
- ・スタンプラリーを、全学年4回取り組んだ。

(5) 言語環境づくり

- ・基本の話形、聞き方、声のものさしを全学級教室に掲示した。
- ・月1回学級の時間を使って、詩・短歌・俳句などの暗唱検定を行った。
- ・慣用句クイズを廊下に掲示した。

II 成果と課題

1 成果

- ・研究授業は、1学期に1本2学期に2本行えたのは良かった。どの授業も、良く研究され練られた授業であり、継続研究の深まりが感じられた。
- ・授業研究だけではなく、言語環境づくりや読書活動・新学習指導要領についての研修など多角的に取り組むことができた。
- ・言語環境づくりの暗唱検定は、全校で取り組み目に見える成果が上がった。

2 課題

- ・全校集会等で児童の声が小さいのが気になるため、研究の一環として何か良い方法があるとよい。
- ・外国語活動の研修にも取り組まなければならないので、どうしていくのか方向性を考えておく必要がある。

III 成果物

- 1 第3学年 国語科指導案 教材名：すがたをかえる大豆
- 2 第5学年 国語科指導案 教材名：人と「もの」との付き合い方
- 3 第6学年 国語科指導案 教材名：生き物はつながりの中に
- 4 子どもにすすめるブックリスト
- 5 身に付けさせたい学習規律（話の聞き方・話し方・声のものさし）
- 6 子どもに読ませたい詩・短歌・俳句

(研究主任 山宮由紀)